

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年7月1日	
		指定年月日	平成17年7月1日	
法人名	株式会社 保健科学研究所			
事業所名	グループホーム さくら園			
所在地	(〒244-0845) 神奈川県横浜市栄区金井町 1600			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成21年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・当園が最も力を入れているのは近隣とのお付き合いです。夏季にはバーベキュー会、冬季はクリスマス会の2大行事を、9月には町内の例大祭への参加をしております。地域の方のご理解を頂き、庭先を散歩の休憩所として使わせていただいたり、みかん狩りにとみかんの木をご提供して頂きました。地域との融合をを図っております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年1月22日	評価機関 評価決定日	平成22年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>・樹木も繁った小山と畑と適度な住宅に囲まれた静かな自然環境を活かし、地域に密着した利用者重視の介護サービスを実施している。 ・地域と共に歩むホームを理念に掲げ、隣に住む大家さんの積極的な協力を得て地域の一員としての生活ができています。 例えば、各種イベントでの相互交流、日常の散歩時の挨拶や会話、実った庭の果物や野菜をもらってくるなど自然な近所づきあいができている。 ・利用者と共に過ごす時間をケアの最重点に掲げ、雨が降らない限り毎日3交代で散歩に出かけ地域とのふれあいを楽しんでいる。 ・利用者個人の生活を大切に、誕生会は利用者おひとり一人の誕生日に性格や好みを考え主役であり注目される存在感を感じられる演出をするなど生きがいを持てるよう努めている。 ・節分、節句、お花見、納涼祭、クリスマスなどには入念な準備をしたイベントを計画し利用者と一緒に楽しんでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	うぐいす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に融合したホーム」については、行事企画等で既に結果を得ている。今後も活動により続けていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者の人格の尊重・地域に融合したホーム」を理念とし見やすい所に掲示し実践している。 ・理念について新人研修で徹底している。 ・ケアの実践で理念について実現しているか指導・徹底している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当園は地域に根ざした運営の為、又入居者様が金井町の一員であるべく、地域の祭りに積極的に参加し、大きな行事で備品が必要になれば町内会へ貸与を求め、交流の一つとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・隣に住む大家さんの積極的な協力を得て地域の一員としての生活ができています。 ・町内会には個人加入とし、イベント、行事を通じて協力関係を築いている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や園の行事に招待し、認知症高齢者やグループホームについて理解を求め働きかけを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、民生委員、ケアプラザに案内状を送付し参加を求めているが今年度は定期開催がなされなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、年度内2回を予定（11月に1回実施）している。 ・会議の中で自治会の交流行事などの情報を得、運営に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は定期的開催され、地域、利用者、施設の相互理解、連携の場として定着することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議ではご近所のみならず、行政とも密な関係が維持できている。認定更新申請では直接足を運び、ケアプラザからの体験学習依頼を受け入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄区役所の担当者とは、生活保護者の受入れ等連携を深めている。 ・地域ケアプラザとも体験学習の受入れなど協力し合う関係を築いている。 	

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解はしていない。具体的に学びたいという中で、身体拘束はしていない。安全を守る名目での施錠は行っている。	・安全上浴室は不使用時施錠しているが、居室は施錠していない。 ・身体拘束に関連する状況はない。 ・玄関は外からは施錠だが、内からは簡単に開くようになっていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に学ぶ機会はないが、身体的虐待は決してない。言葉での注意が該当しているかもしれない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はない。入居者様それぞれの経歴を理解し、個々の対応に反映させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は相手の理解を得られるように、特に退居関係の事項には補足説明の文章を添えることで食い違いを未然に防いでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議も回数を重ねてきたので、ご家族様の意見も伺いやすく、また発言しやすくなってきたように思える。参加できない方には参加票に意見を記載する欄を設け、意見をいただいている。	・家族とは来訪時ゆっくり面談し相互の意見交換をしている。 ・利用者との対話はケアの最重要事項目としており、日常的に意向の把握と運営への反映に努めている。	

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今までは決定事項を伝えるだけであったが、項目により意見を伺うようにする事で意見を反映している。	・カンファレンスや日常のミーティングを定期的に関き、職員間で率直に意見交換できるようにしている。 ・管理者はリーダー会議を設けリーダー間の連携を更に深めることを課題としている。	リーダー間の連携をさらに深めるための方策を進めることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての願望を叶えることは難しい。賃金的なものでは毎年決められた月に昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTにより職員の指導をメインとしている。夜勤研修は経験や習得の具合を見て付き添いの回数を決めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	株式会社保健科学では他に2軒のグループホームを展開しているが、毎月1回管理者が集まり近況報告や問題点について話し合う機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接や情報提供等でできる事前書類で状況把握するが、後から浮上する問題もある。会話や行動から観察し、自然な関係構築に努めている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望にできるだけ近づけるように努めている。入居者様の様子を毎月写真と文章のお便りにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員同士でも相談しながらその時に必要な支援をできるように努めている。初期対応についてはもっときめ細かにする必要がある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく元気な自立した生活を送る為に、何事にも感情を共有できる関係造りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を第一に考えサポート的な立場になっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	様々な制限があり入居前からの関係が維持できない場合がある。キーパーソンの意思もある為。	利用者の意向に沿って、友人、知人からの電話、手紙での交信できるよう支援している。	

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを図り、個々の要求に応じながらよく観察し、介助の時間、順番メンバーを決めて努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もその施設に情報を提供したり、ご家族様よりご連絡があれば対応させていただいている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り本人の意思に添えるように努力をしているが、困難なこともある。入居者様のバランスを考え1人にならないように注意している。	・利用者との対話をケアの重点に掲げているので、日常の対話を通じて希望や意向を把握しそれに沿ったケアに努めている。 ・会話の難しい利用者からは、態度や一寸した発語から、意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限りコミュニケーションを図り、過去の記録などを閲覧する事で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、バイタルで一人一人をよく観察し、把握に努めている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を定期的に行い、それぞれの意見やアイデアを出せるよう話し合う場をもうけ作成している。	・日常の個人別記録、情報を基に担当者が介護計画を作成し、職員がチェックして作成している。 ・医師、職員との連携、話し合いで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践、個別に記入し、スタッフ同士で伝達共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域密着といっても生まれからその土地にいる方ばかりではない。当園は過去にご家族に希望があった方を退去の際に故郷（岡山県）の病院を手配し、お送りした実績がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の環境は物も人も豊かな暮らしを楽しんでいると思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間おきに往診があり希望に添った医療を受けている。	・施設が提携している医療機関による健康管理が中心だが従来のかかりつけ医を希望する場合は協力している。	

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護があり、職員間同士の情報や気づきを記録し、その都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をしたら週1回のペースで面会を行い、医師との面談を申し込む。得られた情報は退院時に即対応できるように職員へ伝える。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度、終末期においては、入居時に説明を行っている。現在までにターミナルケアの実績はない。	・医療機関との連携で可能な限りケアすることを基本に家族にも入居時に説明している。 ・ターミナルに至った事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフができる状態ではない。特に夜間は一人の為、実践力を身につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行なっている。園内の避難経路はあらゆる場所からベランダへ出ることができる設計になっている。大家さんが隣家にありすぐに助けを求めることができる。	・どこからでも容易にベランダに出ることができる設計になっている。 ・年2回消防署の指導で避難訓練を実施している。 ・緊急時隣の大家さんの協力が得られる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持って接してはいるが、忙しい時等つい口調が強くなってしまふことがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人としてプライバシーマークを取得し個人情報保護の意識向上に努めている。 ・気になる行為には、管理者がその都度注意している。 ・利用者個々に合った言葉かけや入浴、排泄介助のときのプライバシーに配慮している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が現せるように声掛けに努めている。良き方向に自己決定できるように勧める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の出勤具合や、その日の行事により、散歩や入浴ができないことを説明し、理解を得ている。不満がないように図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洗面、整髪、髭剃りを行い、清潔を保持している。選択、決定が困難な方に関しては職員が決定の手助けをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事制限がある方にも楽しんでいただけるように切り方や盛り付け等に配慮している。音楽で演出し、また可能な範囲で準備や片付けを一緒に行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の献立、食材は業者に委託しているが、利用者の好みを取り入れメニューを工夫している。 ・一人ひとりの誕生日には好みの料理で誕生日を楽しんでもらっている。 	

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し必要な支援をその都度行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力の方は本人に任せている。毎食後に口腔ケアを行い洗剤を使用した消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限り自力やトイレでの排泄ができるように支援している。	・失敗の不安から紙パンツを使用している利用者が多い。排泄チェック表を確認して、時間を見はからいながら誘導し、失敗を防ぐ支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事、水分の工夫、医師の指示により服薬し、自然な排便を促がす。薬は整腸剤にするなど薬に頼らない努力をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の皆様が週2回以上の入浴ができている。季節感を出すためのゆず、菖蒲、入浴剤を使用し演出している。いつでも好きなときにといった希望には添えない状況である。	・週2回以上の入浴を支援している。入浴日は状況に応じて柔軟に対応している。 ・同姓介助の希望に対応している。 ・浴室内の演出で入浴を楽しむ工夫をしている。	

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や状況に応じて声掛け、昼寝の時間が提供できている。夜間の睡眠時にも温度湿度の調整を図り、環境を整えている。日中の適度な散歩やレクリエーションを促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、種類、副作用について理解するように努めている。入居者様の様子、変化を観察記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	金魚や虫、植物の世話、ゴミ入れ作り、洗濯たみや掃除等、個々にあった役割、支援に努力している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に添ってはいないが、毎日の散歩を日課とし、季節に合った外出行事を実施している。	・利用者の体調、体力に合わせて2、3人のグループを作り、1日3交代で散歩に出かけている。 ・車を利用して、季節ごとの花を楽しむ外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使える機会はない。お金の所持は一部の方のみでトラブル防止の為に所持しない方針である事に理解を求めている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取次ぎもし、必要ときには希望通りにご利用いただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや生き物の飼育、廊下には写真を張り出し、和室には花を飾り季節感を演出している。掃除により清潔の保持に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共同空間は明るく、空調に配慮している。 ・トイレ、浴室は掃除が行き届き清潔である。 ・和室は落ち着いてくつろげる空間になっている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々、席替えを行なっている。居室で1人くつろぐ時間も大切にいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を置いたり、絵や写真、自分の作品を飾り、居室を彩っている。温度、湿度、換気を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が備えているのは、空調設備と押入れである。 ・使い慣れた家具類、照明器具、趣味の置物などを持ち込み、心地よい雰囲気のある居室にしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等、分かりやすいように、プレートをかけて表示している。入居者様の目線で理解できるように配置している。		

さくら園

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に融合したホーム」については、行事企画等で既に結果を得ている。今後も活動により続けていく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当園は地域に根ざした運営の為、又入居者様が金井町の一員であるべく、地域の祭りに積極的に参加し、大きな行事で備品が必要になれば町内会へ貸与を求め、交流の一つとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や園の行事に招待し、認知症高齢者やグループホームについて理解を求める働きかけを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、民生委員、ケアプラザに案内状を送付し参加を求めているが今年度は定期開催がなされなかった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議ではご近所のみならず、行政とも密な関係が維持できている。認定更新申請では直接足を運び、ケアプラザからの体験学習以来を受け入れている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な身体拘束はないが、歩き回る方が多い為、安全面を考慮し、浴室とユニットへの出入り口を施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修は特にはないが、入居者様を日頃から注意深く観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修はないが、自己学習を心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は相手の理解を得られるように、特に退居関係の事項には補足説明の文章を添えることで食い違いを未然に防いでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議も回数を重ねてきたので、ご家族様の意見も伺いやすく、また発言しやすくなってきたように思える。参加できない方には参加票に意見を記載する欄を設け、意見をいただいている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今までは決定事項を伝えるだけであったが、項目により意見を伺うようにする事で意見を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての願望を叶えることは難しい。賃金的なものでは毎年決められた月に昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTにより職員の指導をメインとしている。夜勤研修は経験や習得の具合を見て付き添いの回数を決めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	株式会社保健科学では他に2軒のグループホームを展開しているが、毎月1回管理者が集まり近況報告や問題点について話し合う機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の情報を理解した上で、本人からの要望を親身に受け入れるように努めている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話を十分に聞き、園での状況もお頼りにして報告できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当園が満床の時には系列施設の紹介を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬しつつ、一緒に生活しながら支えあう関係も築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	業維持に招待する事で、楽しい時間を共有し、毎月お便りを送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙も必要な方は自宅にいるときと同じようにしている。かかりつけも医も希望があれば継続してもらっている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で楽しく会話が成立されている方もいますが、曾でない方には職員が間に入ることでコミュニケーションを図ります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もその施設に情報を提供したり、ご家族様よりご連絡があれば対応させていただいている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話をできるだけ多くする中で、本人からの希望を汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入居者様の書類により把握している。ご家族様にも情報を得るように勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の認知症状、ADL状態にも著しく変化が現われている方がおり、皆で一緒という事が困難になってきた。その方にあつた対応を心掛けています。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	排便コントロールについては特に医療に関する専門職との話し合いを繰り返し行い、改善できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の他に、連絡ノートを用い、入居者様の「今、特に気をつける点」を記帳している。確認後にサインを残しているが、徹底されず、記録の内容も改善が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域密着といっても生まれからその土地にいる方ばかりではない。当園は過去にご家族に希望があった方を退去の際に故郷（岡山県）の病院を手配し、お送りした実績がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署より避難訓練や消化訓練の指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を希望される場合は継続していただいている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護があり健康管理を行なっている。こちらからの入居者情報も提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をしたら1/wのペースで面会を行い、医師との面談を申し込む。得られた情報は退居時に即対応できるように職員へ伝える。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度、終末期においては、入居時に説明を行っている。現在までにターミナルケアの実践はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化しているので夜間でも速やかに対応がなされている。定期的な訓練はなされていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行なっている。園内の避難経路はあらゆる場所からベランダへ出ることができる設計になっている。大家さんが隣家にありすぐに助けを求めることができる。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬する事を念頭に置いて、声掛けするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で「やりたいこと」「できること」を声掛けし、お手伝いをして頂けるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子をよく観察し、できるだけ希望に添えられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を行なっている。服装の自己決定が困難な方に対しては、職員が付き添い、声をかけることで促がしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が摂りにくい方には食べやすいように刻み等で形態を変えている。入居様と職員と一緒に後片付け等を行なっている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食記録に残している。特別変化のある方は申し送りで伝えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行なえる方には声掛けを、介助が必要な方には対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認し、入居者様の動作を観察する事で排泄の様子が分かる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の運動と服薬でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を見てから、希望に応じた入浴方法で対応している。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等、居室でTVを観ている方やリビングで過ごす方もいる。個々に過ごす時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時の日時の確認はできているが、セットミスに気付かないことがある。職員一同薬についての意識を高めていくように努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割を見つけ、その人らしい生活を過ごせるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。普段いけないところは季節に合わせて外出企画として行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は手元には行ない方針であり、入居時に説明し、理解を得ている。		

さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は預かり、職員が投函している。電話は希望があれば使っている。電話は希望があれば使っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下の壁には外出した時の写真を貼っている。季節に合わせた貼り絵を入居者様と共に作成する事を検討中。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は決まっているが、その時々に変えることあり。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族で決められる場合もあれば、職員と本人で決めることもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは、歩行不安定な方にとってはととても重要である。歩行が困難な方も自歩行可能な方もいる		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム さくら園

作成日 平成22年3月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の定期開催がなされていない。	運営推進会議を定期開催する。	今まではその都度開催案内を出していたが、他の予定を優先し後手に回っていた。年間開催表を作成して配付し、開催日が近くなったら再度書面で案内をし。定期開催へつなげる。	12ヵ月
2	10	介護記録について、特にADL、認知症状、処方薬の変更など、状態変化についての内容が不十分であったため、ケアプランへの反映や見直す際に資料として使用できないものもあった。また、スタッフにより、観察の視点がばらばらであった。	介護記録は振返りの際の資料である。読み返すことで、現場が想像できるものを目指す。	ケアプランがなければ記録は書けない。記録が不十分であればケアプランの作成はできない。個人の観察内容の柱や荏田を決め、必ず盛り込まなければならないポイントを明確にし、記録ファイルに添付し、見ながら記録を取れるようにする。	6ヶ月
3				気付きの目を養うためにヒヤリハット報告書は毎日1枚提出し、記録にも盛り込む。記録内容がワンパターンにならないようにするための配慮であり、状態変化への記録を残すための方法とする。	6ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。